

# 平成28年度 高知県普通会計決算見込みについて (ポイント編)

## 1. 歳入歳出決算額の状況

国の経済対策事業や災害復旧事業の反動減等により、歳入歳出規模はともに縮小したものの、**実質収支は黒字を確保。**

(単位 百万円、%)

区分	28年度	27年度	増減額	増減率
歳入総額 A	453,350	461,271	△ 7,921	△ 1.7%
歳出総額 B	441,132	444,315	△ 3,183	△ 0.7%
形式収支 C (A-B)	12,217	16,956	△ 4,739	△ 27.9%
繰り越すべき財源 D	11,227	14,322	△ 3,095	△ 21.6%
実質収支 E (C-D)	990	2,634	△ 1,644	△ 62.4%

### ① 歳入

・歳入総額は1.7%の減少 H27：4,612億71百万円  
→ H28：4,533億50百万円 (▲79億21百万円)

景気回復により法人事業税が増となったものの、国の経済対策事業や平成26年度に発生した台風災害に係る事業を27年度に繰り越したことに伴う国庫支出金や繰越金の反動減や、税制改正に伴う地方譲与税の減などにより、前年度から減となった。

### ② 歳出

・歳出総額は0.7%の減少 H27：4,443億15百万円 → H28：4,411億32百万円 (▲31億83百万円)

平成26年度の国の経済対策事業や、台風災害に係る事業を平成27年度に繰り越したこと伴う災害復旧事業費や補助費等の反動減などにより、前年度から減となった。

※ 義務的経費のうち公債費は9年連続の減少 H27：718億75百万円 → H28：712億30百万円 (▲6億45百万円)

### ③ 収支

・実質収支は9億90百万円の黒字 H27：26億34百万円 (黒字) → H28：9億90百万円 (黒字)

※ 平成28年度事業において、公共事業等の市町村負担金を例年より多く次年度に繰り越したことに伴い、見合いの一般財源を要したことが減少となった最大の要因。(新図書館整備分+22.9億円)

## 2. 各財政指標の状況

これまでの県債発行の抑制による公債費の減少など財政健全化の取り組みにより、**実質公債費比率は低下。**臨時財政対策債を除く県債残高については、**投資的経費の増などにより、微増。**

### ① 県債残高

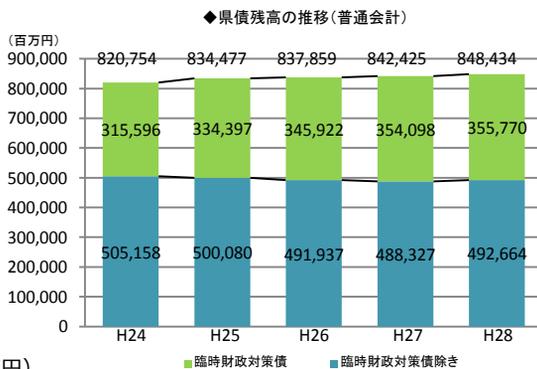
・近年の臨時財政対策債の発行増に伴い県債残高総額は増加傾向。  
・また、臨時財政対策債を除く県債残高は、投資的経費の増などにより、微増。

県債残高総額 H27：8,424億25百万円  
→ H28：8,484億34百万円 (+60億9百万円)  
臨時財政対策債を除く県債残高 H27：4,883億27百万円  
→ H28：4,926億64百万円 (+43億37百万円)

### ② 経常収支比率

・財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、税制改正に伴う地方譲与税の減等に伴い前年度から上昇。

H27:93.8% → H28:96.1% (+2.3ポイント)



## 3. 将来に向けた基金の確保

### ① 財政調整的基金の状況

・決算剰余金の積立て等を行ったものの、財政調整的基金の取崩し(財政調整基金：20億48百万円)を行ったことにより、平成28年度末残高は295億29百万円(33億34百万円の減)となった。

### ② 特定目的基金の状況

・国の経済対策交付金を原資として積み立てた基金などを取り崩したことなどから、平成28年度末残高は134億62百万円(10億75百万円の減)となった。

